

●佛國畫界の巨星コラン氏巴里に逝く

黒田、和田等白馬會に屬する我が洋畫界の先輩は氏の門下

佛國畫界の巨匠ラファエル・コラン氏は此程巴里で死去した、氏は外光派の完成者として有名なるのみならず黒田清輝、久米桂一郎、岡田三郎助、和田英作等舊白馬會系の本邦洋畫大家の多くを氏の門下から出してゐる關係上殆ど廿年前より其名は本邦人の耳に熟してゐるし其作品も甘點餘りも日本へ渡つてゐる、尙先年日本の勳三等旭日中綬章を授けられた事もあつた

▲日本鼻屑で日本人を愛した

黒田清輝氏の談

「コラン先生の訃は岩村透君が近着の米國の雜誌で發見し初めて承知した、永眠の日は先月廿一日とある就ては昨日佛國大使館へ行つて相談の上不取敢弔電を打ち尙久米、岡田、和田等先生の舊門下と協議し相當の贖金して先生の

▼墓前に花環を 手向けて貰ふ事にし當地では築地の加特力の寺院で追悼會を催す事にし度いと思つてゐる、先生は千八百五十年巴里で生れたから享年六十七歳、當時一流の大家アレツサンドロ・カバネルを師としたコラン先生は廿二歳で既にサロンで

▼二等賞を獲得　し僕が入門した卅七八歳の頃は堂々たる大家の中に數られてゐた非常に日本蟲眞の人で日本美術を愛し日本の錦繪から陶磁器の類を澤山蒐集してゐた上門弟でも日本人を特に親切にして呉れ栗野石井本野等大公使とも懇意であつた先生は

▼美術の正統を　辿る人で恰も佛國の繪畫界の潮流がコローやミレー等の自然派から印象派に移つた頃に出會したにも拘らず印象派アンプレッショニストの形式は採らず常に「自分の繪が眞の印象派アンプレッショニストで自然の感覺を寫すのである形式に依る印象派は却つて自然を寫さない」と宣言し混亂せる各派大家の群の中に今日に至る迄

▼特別の地位を　持して來られた、得意の題材は婦人の裸體であつたがそれは甚だ豊艶にして飽く迄上品なものばかりです日本の勳三等は博覽會等の際特に盡力された爲賜はつたらしく佛國の勳章はコンマンドール・ドラ・レジオン・ド・ノールアカデミオンを有し學士會員であつた

『東京日日新聞』大正五年二月二〇日